



令和 8 年度

全国学力・学習状況調査

調査結果の概要と課題、改善の方向性について

令和 8 年 4 月に 3 年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」について、本校の調査結果をお知らせいたします。

- 今回実施した国語、数学、英語に関して、本校の概要を示しました。
- 調査教科の課題を指導内容と照らし合わせて、改善の方向性を示しました。
- 生活習慣や学習環境に関する調査について、特徴的な項目についてまとめました。

「全国学力・学習状況調査」の全国の結果については、国立教育政策研究所のホームページをご覧ください。<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

「全国学力・学習状況調査」の札幌市の結果については、札幌市教育委員会のホームページをご覧ください。https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/gakute/gakute_hp.html

札幌市立平岡緑中学校

	本 校 の 概 要	今回の調査における課題	改 善 の 方 向
中 学 校 国 語	〔領域〕 「言葉の特徴や使い方に関する事項」 □全国平均を上回っている。 「話すこと・聞くこと」 □全国平均を上回っている。 「書くこと」 □全国平均を上回っている。 「読むこと」 □全国平均を上回っている。	●単語の類別について理解すること。 ●互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。 ●表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすこと。 ●文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉えること。	○単語の性質や役割の違いに着目し、品詞の分類基準を整理してグループに分ける学習活動の充実。 ○異なる立場や考えの共通点・相違点を整理し、意見の妥当性を比較・検討して合意形成を図る学習活動の充実。 ○他者からの助言を参考に自他の文章を推敲し、表現の工夫や効果を見いだす学習活動の充実。 ○文章の記述を根拠に、要旨となる部分や修飾や補足などを整理し選別する学習活動の充実。

	本 校 の 概 要	今回の調査における課題	改 善 の 方 向
中 学 校 数 学	〔領域〕 「数と式」 □全国平均を上回っている。 「図形」 □全国平均を上回っている。 「関数」 □全国平均を上回っている。 「データの活用」 □全国平均を上回っている。	●統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明すること。 ●具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすこと。 ●数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。 ●データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明すること。	○文字と式を用いた式から規則性を見だし、成り立つ性質を説明する学習活動の充実。 ○作図を通して図形の特徴を探り、成り立つために必要な仮定を見いだす学習活動の充実。 ○表やグラフの情報を読み取り、問題を解決するための方針を説明する学習活動の充実。 ○2つのデータの度数分布多角形を重ね合わせ、山や散らばりの位置を比較して説明する学習活動の充実。

今回の調査における課題

- 日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ること。
- 日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えること。
- 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けること。
- 社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すこと。
- 社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くこと。



改善の方向

- 聞き取る目的を事前提示し、全訳せずに必要な情報だけを拾う練習や、図表・地図と関連付けさせながら確認する学習活動の充実。
- まとまりのある文章を読み、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとられることなく、文章全体の内容を理解する学習活動の充実。
- 知識を単に暗記させるのではなく、実際の場面を設定したペアワークや対話を通じて「自分の言葉」で伝える学習活動の充実。
- ニュース等の音声を聞き、それぞれの立場や理由の型（フォーム）に沿って意見を共有する学習活動（ペアワークなど）の充実。
- まとまりのある文章を読み、筆者の主張を捉えた上で、その内容に関する賛否や自分の意見、その理由や根拠の関係を明確にしながら内容を整理して書く学習活動の充実。

生活習慣や学習環境に関する調査

生徒質問用紙 80 項目のうち、全国平均と本校の平均について比べることができる項目において、顕著な特徴が見られるものは次のようになった。

【全国平均より「肯定的な回答が上回っている」項目】※上回っている割合が高いものから順に記載

- 「国語の勉強は好きですか」
- 「1、2年生のときに受けた授業では、キーボード（画面上に表示されるキーボードやフリック入力も含む）を使って英語を書く活動をどれくらい行いましたか」
- 「英語の授業の内容はよく分かりますか」 ○「英語の勉強は好きですか」
- 「国語の授業の内容はよく分かりますか」 ○「国語の勉強は得意ですか」 ○「英語の勉強は得意ですか」
- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」
- 「総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどの ICT 機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか」
- 「1、2年生のときに受けた授業では、文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができましたか」
- 「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか」と思いますか」
- 「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができますか」と思いますか」

【全国平均より「肯定的な回答が下回っている」項目】※下回っている割合が高いものから順に記載

- ▼「数学の勉強は好きですか」 ▼「数学の勉強は得意ですか」
- ▼「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」
- ▼「1、2年生のときに受けた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくださいましたか」

【分析と支援】

- 国語や英語の授業に「好き」「得意」「内容がよく分かる」と肯定的な意見をもつ生徒が多い。授業での発問やスモールステップの内容を工夫することで、生徒の思考力や表現力が高まり、学習内容の理解につながっている。
- 学校生活の中でタブレットに触れる機会が多く設定されており、ICT 機器の活用が浸透している。生徒たちは ICT 機器を用いた情報整理やプレゼン作成に強い自信をもっている。
- ▼数学において実力と自己評価のギャップが見られる。文字式や図形の証明に対する「理解度」は高い水準にあるが、「数学が得意」「好き」という感情面での自己評価が大きく落ち込んでいる。結果の正誤だけでなく、そこに至る「思考のプロセス」そのものを温かく承認し、自己肯定感を育みたい。
- ▼「地域や社会をよくしたい」という課題は、探究活動等で地域課題の解決策をスライドにまとめて発信するなど、本校生徒の強みを生かしながら、社会参画への意識を更に高めていきたい。